

God With Us

Part 3: A King in place of THE KING.
1st and 2nd Samuel

Message 14- Absalom's Rebellion
2 Samuel 15-20
May 22, 2016

神は我らと共に
パート3：王(神)に代わる王
サムエル記第一・第二

メッセージ14ー アブサロムの反逆
第二サムエル15ー20章

はじめに

ダビデはバテシバと罪を犯した後、神に罪を告白し赦された。しかし、その後、自分の罪が引き起こした人間関係の損傷を見積もり、修復する困難な処理に怠った。アブサロムが反逆を開始したとき、家庭内の争いは頂点に達した。バテシバとの罪の後、あらかじめそのような結果を招くということを警告されていた：主はこう仰せられる、『見よ、わたしはあなたの家からあなたの上に災を起すであろう。わたしはあなたの目の前であなたの妻たちを取って、隣びとに与えるであろう。その人はこの太陽の前で妻たちと一緒に寝るであろう。(12:11) アブサロムは、父親を打倒し、一時的に王位を手に入れることに成功した。ダビデは、その王位を取り返すことが出来たが、その結果、もう一人の息子を失った。詩篇3、4、5篇(哀歌の詩篇)は、この患難時代のダビデが歌ったものである。

アブサロム、ダビデを倒すための巧みな策略

この後、アブサロムは、自分のために戦車と馬、および自分の前に駆ける者五十人を備えた。(15:1)

アブサロムは、念入りに「イスラエルの民の心を奪った」(6節)。人々の必要が満たされないのは、父ダビデの政策の失敗であり、それらが満たされるための望みは、アブサロムによる王権のみにかかっていると訴えた。その

行動の根底には彼の激しい怒りを覚える。アブサロム自身と妹タマルの人生を台無しにした父親ダビデを怨み、仕返しを望んでいた。そして、復讐する道を選んだが、その道は、他の誰よりもアブサロム自身により大きな被害を被むることになる。

怨みと復讐のためにアブサロムは1年間費やした。神に心の内を委ねることが出来たはずである(ローマ人への手紙12:1, 2)。怨みの牢獄から脱出し、神の正義のための余地を残すことが出来たはずである(ローマ人への手紙12:14-19)。その代わりに、アブサロムは怨みに捕らわれてしまった。「赦すことは、耐え難い瞬間かもしれない。しかし、怒りと怨みは一生耐え難いものである。」(Beth Moore, A Heart Like His, p213)。それは選択することである：怨み、または、赦し。

アブサロムの王宣言： 15:7-12

アブサロムは父親に対する打倒を実行するために最適な場所を心得ていた。ヘブロンはイスラエルから安全な距離があった。また、ダビデが最初にイスラエル全土の王となった場所であった(第二サムエル5:1)。

ダビデの重要な顧問の一人であったアビヤタルは、アブサロムの側に亡命した。孫のバテシバをウリヤから奪い、ウリヤを戦場で殺したことで、ダビデに対し暗黙の怨みを持っていたかもしれない。おそらく、新しい王の重要顧問の役職を保ちたかったことであろう。アビヤタルにとって、彼の役職は人生の全てであった。

アブサロムは犠牲をささげている間に人をつかわして、ダビデの議官ギロびとアヒトペルを、その町ギロから呼び寄せた。徒党は強く、民はしだいにアブサロムに加わった。(15:12)

詩篇55篇は、ダビデが最も近い友人から裏切られたときのことを描写している(参照：詩篇55:12-14)。多くの評論家がアビヤタルの裏切りの時期に書かれたものと信じている。

しかしわたしが神に呼ばわれれば、主はわたしを救われます。夕べに、あしたに、真昼にわたしが嘆きうめけば、主はわたしの声を聞かれます。たといわたしを攻める者が多くとも、主はわたしがたたかう戦いからわたしを安らかに救い出されます。昔からみくらに座しておられる神は聞いて彼ら

を悩まされるでしょう。彼らはおきてを守らず、神を恐れないからです。
(詩篇 55 : 16 - 19)

あなたの荷を主にゆだねよ。主はあなたをささえられる。主は正しい人の
動かされるのを決してゆるされない。(詩篇 55 : 22)

裏切りは、心の中核まで揺さぶられ、多くの嘘を信じてしまう傾向へと陥る
可能性がある：「誰も信頼できない。」「私は愛されるに値しない。」「私
は裏切りに値する。」「二度と信頼関係に心を開いてはならない。」しかし
それでも、わたしたちが心の奥底から神（決して裏切られることが無い神）
に信頼を寄せ、神との結びつきと安心を見出すとき、再び人に心を開くこと
を学ぶことが可能となる。なぜなら、それらの嘘は、もはや私たちを定義し
たり打ち砕いたりする効力を持たないからである。「あなたの荷を主にゆ
だねよ。主はあなたをささえられる。主は正しい人の動かされるのを決し
てゆるされない。(詩篇 55 : 22)」

ダビデ、エルサレムから逃げ去る： 15 : 13 - 18

ダビデがアブサロムの反乱について知ったとき、「緊急事態管理モード」に
入った。ダビデはさらに大きな災害を回避するために、迅速に移動した。
アブサロム怒りの度合いを知っており、息子に面と向かって直面して遭遇す
る災難の危険を冒したなかった。このようにして、ダビデは彼の民を安全な
場所に移動した。

ダビデは、自分と一緒にエルサレムにいるすべての家来に言った、「立
て、われわれは逃げよう。そうしなければアブサロムの前からのがれるこ
とはできなくなるであろう。急いで行くがよい。さもないと、彼らが急ぎ
追いついて、われわれに害をこうむらせ、つるぎをもって町を撃つであろ
う」。(5 : 14)

ダビデが、その民とエルサレムを逃げる際、最後の家に立ち寄り、全員が無
事に町を出たことを確認した。

王は出て行き、民はみな彼に従った。彼らは町はずれの家にとどまった。
彼のしもべたちは皆、彼のかたわらを進み、すべてのケレテびとと、すべ
てのペレテびと、および彼に従ってガテからきた六百人のガテびとは皆、
王の前に進んだ。(5 : 17, 18)

ダビデは、ただ逃亡したのではなかった：取り残される者たちが出ないこと
を確認しながら、秩序ある脱出を導いた。船長が船から脱出する時、
一番最後に脱出することと定められている。ダビデはうろたえなかった。
危機を乗り越えるために主導していた。それは民に自信と希望を与えた。

ダビデの友人： 15 : 19 - 37

ダビデに対する神の哀れみは、エルサレムを脱出する際も明らかであり、
この危機事態にダビデを助けるために命を危険にさらすことを選択する重要
な戦略的パートナーが与えられた。**ガテ人のイッタイ**（ガトのペリシテ人）は
ダビデに忠実であった。ペリシテ人の王と亡命することを思いとどまった。
そのことから信頼を得たイッタイは、後に、ヨアブとアビシャイとともに、
それぞれ、ダビデの軍の三分の一を率いる司令官に昇進することになる。
祭司の**ザドクとアビヤタル**は、神の箱をかついでダビデのところに来た
が、ダビデは、もし神が付いていてくださるなら、再び、エルサレムに
返り、神の御前で礼拝する日が来ることを信じて、二人を送り返した。ダビ
デと親しくしていることを疑われた司祭たちが（サウルによって）虐殺され
てしまった過去があるため、祭司ザドクとアビヤタルがエルサレムに引き返
すためには、ただ信仰に頼る以外なかった。アルキ人のホシャイは、ダビデ
の友人の中でも一番信頼していた顧問の一人であった（第二サムエル 15 :
37）。アブサロムの側に亡命していたダビデの元顧問であったアヒトフェ
ルの助言を阻止してくれる期待とともにエルサレムへ送り返された。実際、
最終的に、ホシャイの助言によってアブサロムの敗北とダビデの王位への復
帰へと繋がることになる。

危機的事態の際、頼りになる信頼できる友人をもつことが重要である。友に
状況を話し自分の側に立ってもらい、ともに通り抜けてもらいましょう。
あなたとともに、祈ってくれでしょう。また、重荷を負ってくれるに違いあ
りません。あなたの緊急事態管理チームは誰でしょうか？互に重荷を負い合
いなさい・・・（ガラテヤ人 6 : 2）

この緊急事態に、ダビデの心がどこに向いていたのでしょうか。手掛かりは、
ダビデ自身の言葉と歌のなかに見られる。祭司のザドクが、神の箱を運んで
ダビデのところに来たとき、ダビデは偉大なる神の御手を信頼していること
を明らかにした。

そこで王はザドクに言った、「神の箱を町にかきもどすがよい。もしわたしが主の前に恵みを得るならば、主はわたしを連れ帰って、わたしにその箱とそのすまいとを見させてくださるであろう。しかしもし主が、『わたしはおまえを喜ばない』とそう言われるのであれば、どうぞ主が良しと思われることをわたしにしてくださるように。わたしはここにおります」。(15:25, 26)

詩篇3篇は、この危機的状況の間のダビデと神との格闘を明らかにしている。

主よ、わたしに敵する者のいかに多いことでしょうか。わたしに逆らって立つ者が多く、「彼には神の助けがない」と、わたしについて言う者が多いのです。しかし主よ、あなたはわたしを囲む盾、わが榮え、わたしの頭を、もたげてくださるかたです。(詩篇3:1-3)

大勢があなたに立ち向かい逆らったというような状況に遭遇されたことがあるでしょうか？多くの人々があなたはおしまいであると言い、諦める。そんなとき、人の予測から目を離し、忠実であられる神に向ける必要がある。神は、あなたの盾となってくさる。過去の失敗と敗北の恥からあなたの頭を持ち上げてくださる。前進するための力と希望を与えてくださる。否定的な人間の声に、あなたを定義させ、打ち負かされてはなりません。火の中を通り抜ける際、あなたが神にしがみついて、希望を神に置くならば・・・神のご計画は必ず勝利へと導かれる。

ダビデは、泣きながら、祈りながら、裸足でオリーブ山を登った。後悔の念が溢れ出ている振る舞いは、この悲しい危機へと導いた彼自身の罪の意識を示している。

ダビデはオリーブ山の坂道を登ったが、登る時に泣き、その頭をおおい、はだしで行った。彼と共にいる民もみな頭をおおって登り、泣きながら登った。時に、「アヒトペルがアブサロムと共謀した者のうちにいる」とダビデに告げる人があったのでダビデは言った、「主よ、どうぞアヒトペルの計略を愚かなものにして下さい」。(15:30, 31)

後に、ダビデの子のイエスが、ゲツセマネの園における逮捕を前に、泣き、祈りながら、同じオリーブ山を弟子たちを連れて登る(参照:マタイ26:30)。

詩篇4は、当時のダビデの心中をより詳しく描写している:

あなたがたは怒っても、罪を犯してはならない。床の上で静かに自分の心に語りなさい。義のいけにえをささげて主に寄り頼みなさい。(詩篇4:4, 5)

わたしは安らかに伏し、また眠ります。主よ、わたしを安らかにおらせてくださるのは、ただあなただけです。(詩篇4:8)

著者 Pete Scazzerro は、「悲しみと喪失を通して魂を拡大する」ということについて書いている(Emotionally Healthy Spirituality. 7章)。ダビデは、まさにその通り実行したようである。ダビデは様々な試練の過程で、泣き祈り、記録することによって、神と格闘した。悲しみや喪失を最小化したり否定したり、合理化することは不健全である。失ったものの全重量を受け止める必要がある。そうすることが出来て初めて、神が与えたいと願っておられるものを知り、また、神との歩みが深まる。私たちが最も暗やみの中にいるときは、神を最も知ることができる機会である。

機会主義者と憎む人: 16:1-14

その騒動の中、幾らかはダビデの側に着き、また、他の者たちはダビデの没落時に捕えられ、彼ら自身の議題を追求した。ジバは、ヨナタンの身体の不自由な息子メピボセテの僕であった。ジバは、主人メピボセテがダビデが打ち倒されることを望んでいたとダビデに偽った。ジバは機会主義者であったので、自分の生活保護のためなら他人を犠牲にした。ダビデはその疑惑の背後にある真実を知らず、以前メピボセテに正式に付与した全ての土地をジバに与えた(16:1-4)。

危機的状況にあるとき、苦痛から決断に走ってしまうことがある。ダビデはジバの主張について賢明な決定を下すために必要な情報への十分な手がかりを持っていなかった。ダビデは、今までに一度も裏切ったことの無いメピボ

セテについて間違った臆測をした。危機的状況の際に、決断を急ぐことは避けましょう。物事を悪化させるだけである。

サウルの家系であるシメイは、ダビデに呪いの言葉を吐きながらエルサレムから逃げ出た（16：5－14）。サウルの王朝を滅ぼしたダビデに対して憎しみに溢れていた。

シメイはのろう時にこう言った、「血を流す人よ、よこしまな人よ、立ち去れ、立ち去れ。あなたが代って王となったサウルの家の血をすべてあなたがあなたに報いられたのだ。主は王国をあなたの子アブサロムの手に渡された。見よ、あなたは血を流す人だから、災に会うのだ」。（16：7，8）

ダビデの司令官であるアビサイは、シメイをその場で殺したいと思ったが、ダビデが許さなかった。神が動いてくださることを望んだからである。

ダビデはまたアビシャイと自分のすべての家来とに言った、「わたしの身から出たわが子がわたしの命を求めている。今、このベニヤミンびととしてはなおさらだ。彼を許してのろわせておきなさい。主が彼に命じられたのだ。主はわたしの悩みを顧みてくださるかもしれない。また主はきょう彼ののろいにかえて、わたしに善を報いてくださるかも知れない」。（16：11，12）

傷つける人たちに対して暴言を吐き返す誘惑にかられるものであるが、ダビデは別の方法を選んだ。最悪の経験の中でも、神が動いてくださることを求めたのです。Larry Crabb 著者の作品の多くは、特に、試練や痛みを通る私たちの人生の歩みの中で神の動きを識別することの大切さを語っている。

「Soul Talk」の中の質問は：この状況の中で、神は私に何を言おうとなさっているのか？神様は私の人生をどのように用いようとなさっているのか？神はどのように私に近づこうとしておられるか？

アブサロム、エルサレムを支配する：16：15－23

父ダビデが亡命中であるアブサロムはエルサレムの町を乗っ取り、直ちに彼の権威を主張した。顧問であるアヒトペルのアドバイスで、アブサロムが最

初に行ったことは、父のめかけたちと性的関係を持つことであった。完全に王の上に勝利し、征服したということを示すための古代の習わしであった。

こうして彼らがアブサロムのために屋上に天幕を張ったので、アブサロムは全イスラエルの目の前で父のめかけたちの所にはいった。（16：22）

ダビデがバテシバと罪を犯した同じ場所を思い出しましょう（参照：11：2）。預言者ナタンがダビデが罪を犯した後に告げた預言が成就する：

主はこう仰せられる、『見よ、わたしはあなたの家からあなたの上に災を起すであろう。わたしはあなたの目の前であなたの妻たちを取って、隣びとに与えるであろう。その人はこの太陽の前で妻たちと一緒に寝るであろう。あなたはひそかにそれをしたが、わたしは全イスラエルの前と、太陽の前にこの事をするのである』。（12：11，12）

アブサロムは、父親に対して究極の屈辱を与えた。

ホシャイの助言、ダビデの脱出を助ける：17：1－29

アヒトペルは、アブサロムに12,000人の軍隊を結集し、ダビデが弱っている内に追いかけるよう助言した。ホシャイ（アブサロムの反乱を阻止することを期待しながらダビデがエルサレムに送り返した顧問）は、ダビデであれば簡単にそのような小さな力を倒してしまうと主張することによって、アヒトペルのアドバイスに反対した。その代りに、待って、イスラエルの全ての大規模な軍隊を結集し、本格的な攻撃を勧めた。実際、ホシャイは、ダビデの逃亡を助けるための時間稼ぎをしていたのである。

アブサロムとイスラエルの人々はみな、「アルキびととホシャイの計りごととは、アヒトペルの計りごとよりもよい」と言った。それは主がアブサロムに災を下そうとして、アヒトペルの良い計りごとを破ることを定められたからである。（17：14）

アヒトペルの助言が拒絶された際、絶望のあまり家に帰り、身辺整理をし、自殺した。アヒトペルにとって生きる意味は、王の最も信頼できる顧問であるという定義であった。その役割から遠ざかった途端、彼は生きがいを失ってしまった。Donald Miller 著書の「Scary Close」で、生活に占める役割と実

在する人物の違いについて述べている。私たちが役割のために生きるとき、偽の自分を世に差し出すことになる。その一方、どんな役割からもかけ離れて自分自身が誰であることを認識するちき、他の人との関係に本物の自分を開放することになる。役割の陰に隠れてはならない。人と「親密」になるためには役割から踏み出した本来の自分自信になる必要がある。**必読本!**

アブサロム、ヨアブに殺害される： 18：1－33

相手側の軍隊が準備を整えている間、ダビデはアブサロムに遭遇した際の対処方について具体的な指示を出した。

王はヨアブ、アビシャイおよびイッタイに命じて、「わたしのため、若者アブサロムをおだやかに扱うように」と言った。王がアブサロムの事についてすべての長たちに命じている時、民は皆聞いていた。(18：5)

ダビデはアブサロムを哀れむよう指示した。ダビデは、神ご自身がダビデを同じように哀れんでくださったことを心得ていた：「主よ、み名のために、わたしの罪をおゆるしてください。わたしの罪は大きいのです。(詩篇25：11)」

アブサロムの裏切りと反乱にもかかわらず、ダビデは息子を赦していたという事は明確であった。ダビデは彼自身の罪がアブサロムに怒りの反乱に貢献してしまったということを知っていた。

David Stoop 著者である「Forgiving the Unforgivable」の中で、憎しみの道と赦しの道を比較している。偉大な犯罪に直面した際、深い赦しは決して迅速、容易ではない。赦しによって少しずつ、また、繰り返し犯行を洗浄することによって、最も深いレベルの痛みや喪失を悲しむ必要がある。速やかな赦しは、それが原因となって、更に別の罪を引き起こす痛みを最小限に抑える。憎しみは、自分の魂の永遠の毒となる。その一方、深い赦しは、犯罪者が罪の重荷から前進することを可能にしながら、同時にあなた自身の傷を癒すことができる。

悲惨なことに、ヨアブはここでも再び、ダビデの権限を無視することを恐れず、自己意志を保つ司令官であることを明らかにしている。ヨアブは、頭をかしの木にかかってつり下がっているアブサロムに遭遇したとき、彼を殺害し

た。ダビデの心は息子であるアブサロムの死の知らせを聞いた時、打ち砕かれた。

王はひじょうに悲しみ、門の上のへやに上って泣いた。彼は行きながらこのように言った、「わが子アブサロムよ。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、わたしが代って死ねばよかったのに。アブサロム、わが子よ、わが子よ」。(18：33)

死ぬべきであったのはアブサロムではなく、ダビデの方であったと悔やんだ。息子が不良に育ってしまった原因の幾らかは、ダビデ自身の犯した罪にあることを知っていた。

ヨアブ、嘆くダビデを非難する： 19：1－7

頻繁にヨアブは、まるでダビデの上に立つ指揮官であるかのごとく振る舞った。ここでも、ダビデが息子、アブサロムの死を嘆いているとき、直ちに態度を改めない場合は、さらに悪い反乱を招くことになるかと警告した。

今立って出て行って、しもべたちにねんごろに語ってください。わたしは主をさして誓います。もしあなたが出られないならば、今夜あなたと共にとどまる者はひとりもないでしょう。これはあなたが若い時から今までにこうむられたすべての災よりも、あなたにとって悪いでしょう」。(19：7)

更に驚くことに、ヨアブはダビデの命令に従わなかった(アブサロムはダビデの命令に反してアブサロムを殺したのです。)にもかかわらず、ダビデはヨアブの命令に従ったということである。

私たちに他人の感情をコントロールする権利はない。それぞれが自分の時に自分の痛みを処理する権利を与えられなければならない。オークポイント教会の「Litening Well」のコースでは、相手の感情や考え方を修復しようとするのではなく、共感しながら相手の話を聞く方法を学びます。ヨアブはダビデの感情の領域の無礼な侵入者であった。ヨアブはダビデに人であることを止め、王としての役割を果たすべきであると強要した。そのような類の友は慰めようとして、かえって人を煩わす者である(ヨブ16：2)。

ダビデ、国を再び統一する： 19：8－15

アブサロムの死後、イスラエルは大きく分裂した。北の部族はアブサロムを支持する傍ら、南のユダ部族はダビデへの忠誠を保った。ダビデは主要指導者を招集して国家を再結合に取り掛かった。

こうしてダビデはユダのすべての人の心を、ひとりのように自分に傾けさせたので、彼らは王に、「どうぞあなたも、すべての家来たちも帰ってきてください」と言いおくれた。（19：14）

分裂して存在するもの（家族、ビジネス、教会、学校、等）は、グループ内の不統一が許される限り前進することは不可能である。私たちは、団結を回復するために、全ての関与する人々の心に働きかけなければならない。平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。（エペソ4：3）

ダビデの解決策： 19：16－39

ダビデは、エルサレムから逃亡した際、ダビデを激しく呪ったシメイを赦した（参照：16：5－14）。シメイは、罪を悔い改めながらダビデのもと来て慈悲を請うたので、求めたものを与えた（19：16－23）。ペピボシェテの僕のジバは、その主がアブサロムの側についたと偽りの証言をした（16：1－4）。ダビデがメピボシェテ自身から真実を聞いた後、ダビデは以前ジバに与えた土地を平等にメピボシェテと分けることを決心した（19：24－30）。バルジライは、ダビデとその男たちが亡命を余儀なくされた際、主な食糧を与えてくれた80歳の男であった（17：27，28）。今度は、ダビデがバルジライに「僕」キムハム（おそらく息子）をダビデと共にエルサレムに住むことが出来るように計らうことによって、バルジライを報いた（19：31－39）。

人間関係が全てである。ダビデとアブサロムの物語は、深く読めば読む程、王座争いのための単なる試練の物語だけに留まらない。より困難な試練とは上手く愛するということである。最終的に、私たちは **we are not Human doings, we are human beings.**、人間であることを覚えることが重要である。最も重要であることは、神がどんな道へと私たちを召されようと、その過程で神をどのように愛し、また、人々をどのように愛するかということである。

る。偉大な黄金律は、敵を打倒し、どんな手を使ってでも勝つことではない。心を尽くして、魂を尽くして、思いを尽くして、力を尽くしてあなたの主である神を愛せよ・・・また、自分を愛するように隣人を愛せよである。最終的には、人生は王座を競うゲームではない。人を愛する機会こそが人生である。

シバの反乱： 19：40－2：26

アブサロムの反乱は、イスラエルを分裂させた。ダビデが統一の修復を試みている傍ら、激しく抵抗する者たちがいた。シバはベニヤミン部族（サウルの部族）であった。ダビデ自身の部族以外は皆ダビデに反乱を起こした。

そこでイスラエルの人々は皆ダビデに従う事をやめて、ビクリの子シバに従った。しかしユダの人々はその王につき従って、ヨルダンからエルサレムへ行った。（20：2）

ダビデはアマサ（アブサロムの元司令官）をシバの反乱を治める男に指名した。アマサは、なかなか行動に移さなかったため、ダビデはアビサイ（ヨアブの長老－参照：第一歴代誌2：16）に反乱を治めることを急がせるよう命じた。ヨアブは迅速にシバを見つけ倒す使命をアマサから奪い、先ずアマサを殺し、それからシバを殺した。ヨアブは迅速に指揮を奪い、シバを破壊する使命を果たした。ヨアブは、ただ一人ダビデが恐れ、権威を持つことが出来ない男であったが、いずれにせよ、シバの反乱は鎮められ、ダビデのイスラエル全土の王位は修復された。

神は、ダビデの王朝が永遠に続くことを堅く約束された（第二サムエル7：16）。もし、ダビデ（またはその息子）が神に背くことがあった場合、神の戒めはあっても、ダビデとその子孫が王位を受け継ぐというお約束に神は永遠に忠実でいてくださる。このように、ダビデはしばらくの間、王位を失ったが、神のお約束によって、再び王位を取り戻すことが可能となった。神は忠実でいてくださる、たとえ私たちが神に不忠実であっても（第二テモテ2：13）！